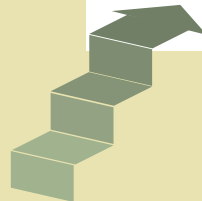


高崎英学校

明治3年に全国に先駆け



◀高崎英学校は高崎市榎物町の一角にあった



内村鑑三の思想の原点。尾崎行雄らも学ぶ

●英語の達人・内村鑑三

明治時代に、日本人が英語で日本を欧米に紹介した三大日本人論として、新渡戸稲造『武士道（明治32年）』、岡倉天心『茶の本（明治39年）』、そして高崎ゆかりの宗教家・内村鑑三が著した『代表的日本人（明治41年）』の3冊が名高い。

内村鑑三はこの著作の中で、西郷隆盛、上杉鷹山ら5人の人物を取り上げ、日本人の精神性を海外に紹介している。日本文化を深く洞察するとともに、英語の文章力もとても高かった。内村鑑三はスバ抜けた英語の達人だったのだ。学生時代は英語漬けで鍛えられた。友人と英語で文通し、読書家だったので英語の書物も原文で読んだ。内村の英語の勉強は高崎から始まったのだ。

●高崎藩士の家に生まれ 藩学で学ぶ

内村鑑三は幕末の文久2年（1861）、高崎藩士の子として高崎藩江戸屋敷で生まれ、高崎で育った。キリスト教指導者、平和主義者として苦難に立

ち向って崇高な生き方を貫き、その思想には日本人の精神、武士道が重んじられている。

内村は10歳の時に、高崎英学校で英語を学んだ後、東京外国語学校、札幌農学校に進学、単身でアメリカへも留学した。新渡戸稲造と内村は札幌農学校の同級生で、2人はここでキリスト教の洗礼を受けた。

●全国に先駆けた高崎英学校

内村鑑三が学んだ高崎英学校は、高崎藩の最後を飾る画期的な学校といえ、明治3年（1870）に、高崎城のお堀の近く、榎物町の一角に開校した。藩主の大河内輝声（おおこうちてるな）が新しもので、官立の英学校が東京ほか全国7カ所に開校したのは、高崎英学校の3年後だった。ここに高崎の進取性、先駆性が現れている。港湾地域ではなく、内陸の高崎にいち早く創設されたことも特筆されるだろう。

開校の翌年、高崎英学校は、高崎城大手門前の藩校へ移されたが、内村鑑三は、柳川町の家から、ここに通って英語を学んだようだ。後に内村は「榛名碓氷の連峰を見ながら我少年時代の事共思い出した。（略）。小泉先生より

学びしABCが後に役に立って、日本全国にキリストの福音を伝えるに至ったのである」と、60年後の日記に記している。内村鑑三が60年間忘れられなかった小泉先生、小泉敬二はすばらしい指導者だったようだ。

●尾崎行雄ら傑物を輩出

高崎英学校には、高崎藩士の子息だけでなく各地から生徒が集まり、内村鑑三ほか日本を代表する傑物を数多く輩出している。筆頭は憲政の神様と呼ばれた大政治家・尾崎行雄。尾崎は父親の赴任で高崎に住んでおり、この英学校に通った。

高崎英学校は2年で廃校になってしまいが、鎖国を解いて世界に目を開いた明治時代、内村鑑三は、まさに時代の申し子として英語を学んだ。進取の気風にあふれた高崎の風土は、内村鑑三の原体験となったのである。

【内村鑑三関連】

内村鑑三の生家跡が柳川町に、内村家の墓所が光明寺（若松町）にある。高崎公園南の頼政神社境内の内村鑑三記念碑には、有名な「上州無智亦無才／剛毅木訥易被欺／唯以正直接萬人／至誠依神期勝利」の漢詩『上州人』が刻まれている。

